九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

地域コミュニティ施設の基本計画支援ワークショップ手法に関する研究 ： ケーススタディ ： 愛知県日進市を事例として

平山, 文則
九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻 ： 博士後期課程

趙, 世晨
九州大学大学院人間環境学府都市・建築部門

https://doi.org/10.15017/1456079

出版情報：都市・建築学研究. 24, pp.21-29, 2013-07-15. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

都市・建築学研究　九州大学大学院人間環境学研究院紀要　第24号，2013年7月
J. of Architecture and Urban Design, Kyushu University, No.24, pp. 21～29, July. 2013

地域コミュニティ施設の基本計画支援ワークショップ手法に関する研究 ケーススタディ：愛知県日進市を事例として

Supportive Workshop Method on Regional Community Facilities Basic Design A case study of Nissin city in Aichi prefecture

平山文則*，趙　世晨**
Fuminori HIRAYAMA* and Shichen ZHAO**

This paper clarifies effects on the workshop method of local community facilities from these three different perspectives. 1)The factors contributing to succeed projects are shown by reviewing a series of workshop processes in detail; 2) The requests in the workshops are classified by type and room, and the variation in the numbers of them during workshop processes are followed up, and the ratio of adopted requests are counted; 3) The effects of workshop on user's satisfaction degree are clarified by satisfaction survey of the completed projects with the aid of mathematical quantification theory class 2.

Keywords : public participation, public workshop, consensus formation, public cultural facilities
住民参加，住民ワークショップ，合意形成，公共文化施設

1. はじめに

1.1 研究の背景

公共施設の計画支援のためのワークショップ（以下WSと略す）手法は1960年代にアメリカで始まり，わが国においても最初は公園や地域計画・まちづくりを中心に行われ，1990年代ころからは単体の建築物へも対象が広がり，広く実践されている．

WSに関する研究についても，その実践に伴い，意義・手法・実践例などが，行政学や都市政策学など幅広い学問領域で進められ著作や論文も多い．

一方，単体の建築計画・設計の領域における研究は，WSが一連の設計行為の一部であるため少ない．

1.2 研究の目的

本研究の目的は二つある．一つは，地域コミュニティ施設の基本計画WSの一連の流れを報告することによりWSがまちづくり等と同様に建築設計においても有効であることを明らかにすることである．

二つは，プロジェクトの竣工後の使われ方について住民意向調査を行い．住民関与の度合いやWS効果についての知見を得ることである．

*　都市共生デザイン専攻博士後期課程
**　都市・建築学部門

1.3 既往の研究

市民参加に関する研究では1969年のアメリカの社会学者シェリー・アーンスタインによる「市民参加の梯子」[1]が著名である．市民参加の形態を8段階に区分し，1～2段階は「市民参加と呼ばない」，3～5段階は「形だけの市民参加」，6～8段階ではじめて「力が活かされる市民参加」と述べている．

世古一穂の市民参加の意義・参加者の役割と機能，ファシリテーターの重要性などに関する研究[2)～4)]，中野民夫らによるWS手法に関する研究[5)～7)]，ロバート・チェンバースによるWS実践における留意点に関する研究[8)]原科幸彦らによるまちづくりを対象としてWSで出された意見の類型や反映のされ方に関する研究[9)]，倉原宗孝らによる駅及びその周辺の整備計画の研究[10)]，日高圭一郎らによるまちづくりWSの評価・運営に関する研究[11)]など多数ある．

一方，建築単体の分野では，清水裕之らによる劇場を含む公共文化施設の検討体制と合意形成プロセスに焦点を当てた研究[12)～13)]など少ない．

2. 住民参加型設計手法の概要

2.2 研究対象の選定

本研究では，地域コミュニティ施設の基本計画WSの事例として，愛知県日進市の西部福祉会館を取り上げて

いる．その選定理由は1) 行政が「住民との協働」を志向，2) 構想・計画・設計・建設・管理運営の各段階の図面や資料の入手が可能，3) WSで出された意見の詳細情報があり，4) 竣工後の利用者満足度の調査を実施していることである．

2.2 プロジェクト概要と行政のねらい

日進市は名古屋市の東隣に位置し，これまで「福祉会館」6館を建設している．「福祉会館」と言う名称は設立の経緯により定められたが，実態は子育て世代・小中高生・社会人及びお年寄りを対象とした「0歳から100歳までを対象とした」地域コミュニティ施設である．

その中，西部福祉会館の計画・建設の特徴としては，当時の市長の「市民協働の街づくり」の考え方から6館のうち3館が住民参加型計画・設計手法で建設され，西部福祉会館はその最後の会館である．建物概要を表1に，平面図を図1に示す．このプロジェクトの設計要綱として次の2つが提示された．

一つは今までの福祉会館における「高齢者の憩いの場」と「児童が家庭や学校以外で健全に過ごせる居場所」に加えて様々な世代の交流の場を創りあげる事であり，もう一つはシェリー・アーンスタインが提唱する住民参加の基本方針の「6段以上」を実現することであった．

2.3 設計者選定プロポーザル

設計者選定プロポーザルは2004年9月に行われ業務の実施方針・住民参加手法の提案・担当チームの技術力等の技術提案書及びヒアリングにより12者からN社が

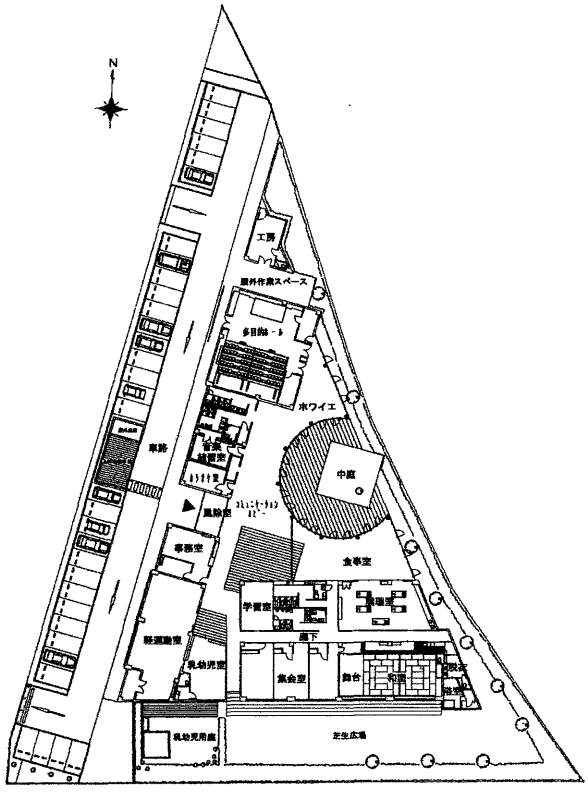


図1 西部福祉会館平面図

表1 西部福祉会館概要

項目		概要
計画地		日進市赤池町下郷222
敷地面積		4,506㎡
延べ床面積		1,809㎡
構造		鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
規模		平屋建て
設計・監理		㈱NTTファシリティーズ
期間	基本計画	2004年9月～2005年3月
	基本設計	2005年6月～2006年3月
	実施設計	2006年4月～2006年9月
	工事監理	2008年2月～2009年3月

設計者に選定された．選定理由としてWSの豊富な経験，WSの具体的なスケジュールの提案，毎回のWS前後の事務局打合せの充実及び三角形敷地を老人，子ども，社会人で3つに分けたゾーニングが評価された[注1)]．

2.4 WS参加者の構成

WSに参加する住民の選定はこのプロジェクトの場合は地域に密着した利用を促進する意味から地域を限定して行政側が公募し，年齢層や居住地区のバランスを考慮して36名が選定された．

選定されたメンバーには基本計画の期間中（7ヶ月）にWSに参加すること，固定メンバーであることに対して小額であるが謝金が払われた．WS出席率は平均56.6%であった．

WSの企画・運営・実践の主体である事務局は行政と設計者で構成した．行政は市の主管課である福祉課を児童課が補佐する形態を取った．

このプロジェクト以前に日進市では2件の住民WSを実践した経験があり，その際の担当者が再度担当者となったことや設計者側も住民WSを複数回経験した人材を責任者・担当者とした．3者の役割，事務局体制を図3に示す．なおWSの運営には近傍の大学研究室に支援を仰いだ．

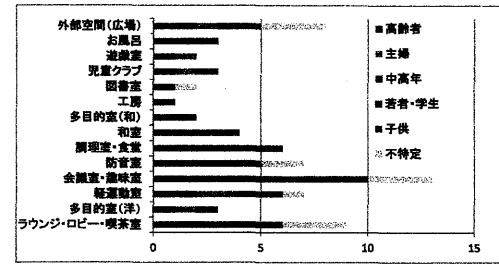
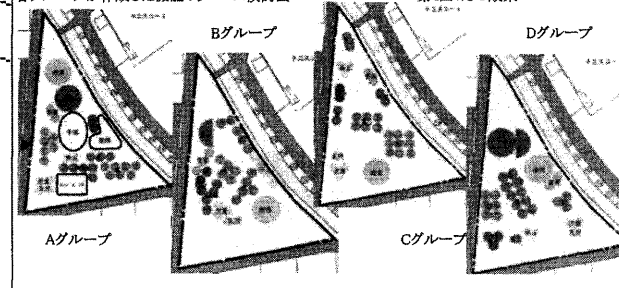
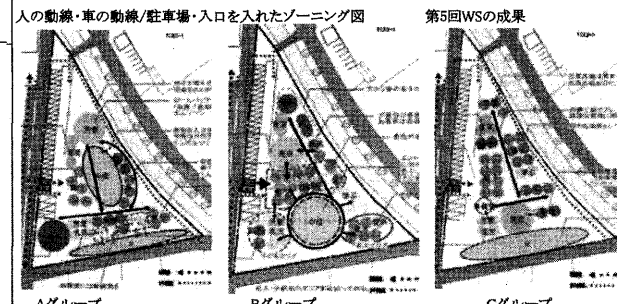
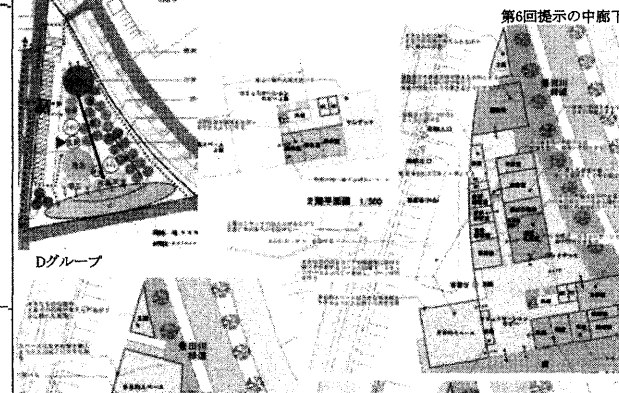
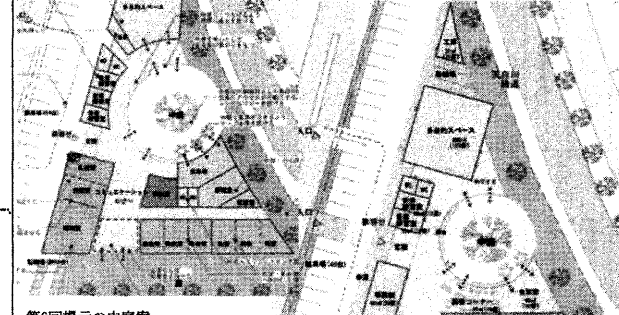
2.5 WS全体の流れと各回のテーマ設定

2004年9月から2005年3月までの7ヶ月で8回のWSを行い，そのWSを中心にして基本計画策定業務を行った．各WSの参加者・テーマ・作業概要と意見数等の計画案策定経過を表2に示す。各回のテーマを以下の通り設定した．

第1回は設計者選定前で住民と行政で開催し自己紹介と全体スケジュールの報告を行った．

第2回「必要諸室の抽出」，第3回「類似例見学」，第4回「必要諸室のゾーニング」，第5回「動線を付加したゾーニング」，第6回「計画案の提示」，第7回「基

表 2 WS の参加者・テーマ・作業の概要

	参加者	テーマとプログラム	主な作業内容と作業成果	意見分類
第1回 2004.9.11	21名 住民 15名 行政 6名	設計者選定前なので住民と行政で実施 ・自己紹介・今後のスケジュールの説明 ・他施設紹介・WSの進め方の説明	第2回WSで出された「欲しい部屋」と「それを使う人」の関係図 この時点では「集会室」「ラウンジ」次いで「軽運動室」「スタジオ」「調理室」の要望が高い  	多数出たが計画案への影響がない意見のため省略
第2回 2004.10.24	40名 住民 26名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 4グループに班分け WSの雰囲気:実質的な初回であるが、各グループに事務局が複数入り終始なごやかな雰囲気	活動イメージから空間を探る ステップ1:あいさつ (15分) ステップ2:スケジュール・前回の振返り ステップ3:グループで自己紹介(15分) ステップ4:「想いを語ろう」(40分) ・新しい会館でやりたいことは何? ・対象は自分だけでなく家族・知人の分も考える ・そのためにはどんな部屋が必要? ・「なりきりペーパー」に意見を書く ・議論し「提案シート」にまとめる ステップ5:全体発表&意見交換(40分) ・グループ結果の発表・意見交換 ステップ6:まとめ(15分)		68件 コンセプト 6件 機能 12件 部屋 35件 外部 8件 管理・運営 8件 感想カード25件 コンセプト 1件 WSの進め方 19件 単なる感想 5件
第3回 2004.11.6	27名 住民 13名 行政 6名	3軒の類似施設調査を実施 設計者 5名 大学 3名	各グループが作成した機能ボリューム検討図 第4回WSの成果  	類似調査建物への意見は多数出たが省略
第4回 2004.11.20	32名 住民 18名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 4グループに班分け WSの雰囲気:住民要望が具体的に採用されるためほぼ全員が満足な様子	機能をボリュームに置き換える 1 ステップ1:あいさつ (15分) ステップ2:前回の振りかえり(15分) ステップ3:グループで自己紹介(15分) ステップ4:「必要な機能を敷地に並べよう」(40分) ・作成した「意見短冊」をグルーピング。 ・意見の多さを大きさを変えて色紙を切り抜く。 ・切り抜いた図形を敷地シートの上に並べる。 ・各部屋でやりたい事をポストイットに記入。 ステップ5:全体発表&意見交換(40分) ・グループ結果の発表・意見交換 ステップ6:まとめ(15分)		42件 コンセプト 0件 機能 1件 部屋 40件 外部 1件 管理・運営 0件 感想カード27件 部屋 8件 外部 2件 WSの進め方 15件 単なる感想 2件
第5回 2004.12.18	37名 住民 23名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 4グループに班分け WSの雰囲気:基本計画作業の中でこのWSが重要との認識があり満足感が漂う	機能をボリュームに置き換える 2 ステップ1:あいさつ (5分) ステップ2:コンセプト策定(15分) ステップ3:第4回の振り返り(10分) ステップ4:「必要な機能を敷地に並べよう2」(40分) ・前回に引き続き必要な機能を敷地に並べる。 ・コンセプトの実現や外部要因を加味して並べる。 ・出された意見をポストイットに記入。 ステップ5:ゾーニング図作成(20分) ・グループの討議内容をまとめる。 ステップ6:全体発表(30分) ステップ7:まとめと次回の説明(20分)	人の動線・車の動線/駐車場・入口を入れたゾーニング図 第5回WSの成果  	56件 コンセプト 1件 機能 1件 部屋 35件 外部 12件 管理・運営 6件 単なる感想 1件 感想カード30件 コンセプト 2件 機能 1件 部屋 4件 管理・運営 1件 WSの進め方 15件 単なる感想 5件
第6回 2005.1.29	34名 住民 20名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 2グループに班分け WSの雰囲気:世代間の考え方の違い・対立がややめだったが、議論がまとまる事への充実感あり	想いをかたちにまとめる 計画案 2案の提示 ステップ1:あいさつ(5分) ステップ2:第5回の振り返り(25分) ステップ3:「想いをかたちにまとめよう!」(50分) 前回の4案を2案に絞り込んだ経緯を説明。 ・上記2案の特徴と概略面積を説明。 ・グループ内で自己紹介 ・リーダーが計画案の説明を行う。 ・討議項目を決め全員で討議する。 ・討議内容をゾーニング図に書き込む。 ・図面に記入できない事項は、補足する。 ステップ4:まとめの資料作成(20分) ・討議内容をビジュアルにまとめる。 ステップ5:全体発表(30分) ステップ6:まとめと次回の説明(10分)	第6回提示の中廊下案 Dグループ 	52件 コンセプト 0件 機能 2件 部屋 44件 外部 6件 管理・運営 0件 感想カード30件 機能 1件 部屋 4件 WSの進め方 16件 単なる感想 9件
第7回 2005.2.19	35名 住民 21名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 1グループに班分け WSの雰囲気:1案への集約はスムーズに行われる。靴の履き替え、浴室設置の是非で激論を戦わせ完璧に納得し合う事はできない事も理解。	2案を1案に ステップ1:あいさつ(5分) ステップ2:第6回でまとまった2案の報告(60分) ・設計者提示の2案に住民意見をいれた案の報告。 ・今後の課題や集約し切れなかった点を議論。 ステップ3:「2案を1案に!」(40分) ・1案に集約か、どちらかを最終案に選ぶのか? ・議論の仕方について説明。 ・初参加者には今までの経過を説明。 ステップ4:まとめと最終回の説明(10分)	第6回提示の中庭案 	39件 コンセプト 0件 機能 2件 部屋 28件 外部 3件 管理・運営 3件 WSの進め方 2件 単なる感想 1件
第8回 2005.3.12	35名 住民 21名 行政 6名 設計者 5名 大学 3名 WSの雰囲気:前回の激論は影をひそめ住民同士で米を確定した満足感あり。案の発表も住民が行う。	基本計画案の説明 ステップ1:あいさつ (10分) ステップ2:基本計画案の説明(40分) ・内容を模型やゾーニング図で説明。 ・初参加者には今までの経過を説明。 ステップ3:全体討議 基本計画案に望むこと(40分) ・基本計画案に対しての意見。 ステップ4:基本設計に向けての要望(20分) ・基本設計への要望。 ・基本設計WSへの参加をお願い。 ステップ5:まとめ(10分) ・WS終了のあいさつ	第7回提示の基本計画案 	44件 コンセプト 2件 機能 0件 部屋 27件 外部 7件 管理・運営 3件 WSの進め方 5件 感想カード23件 部屋 5件 管理・運営 3件 WSの進め方 12件 単なる感想 3件

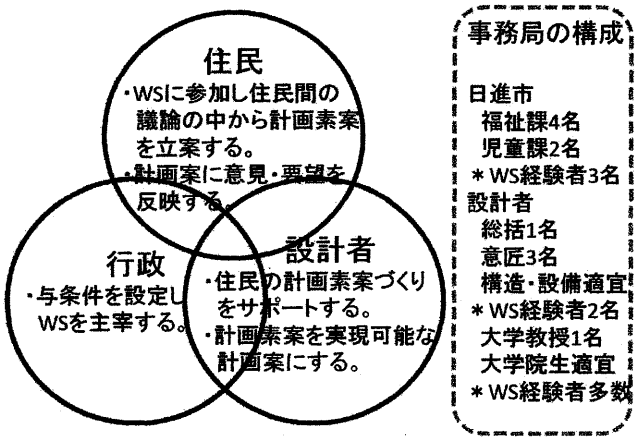


図 2 参加者の役割と事務局の構成

本計画案への集約」，第 8 回「住民への基本計画案の説明」をそれぞれ行った．

2.6 WS の進め方と事務局の打ち合わせ

WS は以下のような事項及び手順を守りながら進めた．

(1) グループメンバーの数

住民が話したい事を時間内で発言できる程度の小グループ（4 グループ）に分けた．各グループは最大 6 ～ 7 名，行政・設計者を含めても 10 名を超えない．

(2) 各回 WS の進め方

各回の WS では，以下の①～⑦に従って進めた．

①プログラム・配布資料・掲示資料を基に，前回の振返り→自己紹介→作業を行い意見発表→グループ内での議論→グループ間での議論→まとめ，の順で WS を進める．②WS は集中力が途切れない限界である 3 時間程度とする．③全体の進行役 1 名．各グループの進行役 1 名は設計者が行う．④住民の発言ルールとして，全員が発言し終わるまで質問はしない．⑤住民の発言内容は必ずポストイットにメモし記録保存する．⑥その回の作業内容のまとめを次回の作業前に報告し誤りがないか確認する（前回の振り返り）．⑦WS 最後には感想カードに自由記述をしてもらい，潜在的な不満を次回で解消するツールとする．

(3) 事前・事後打合せ

事務局内での事前打合せを WS の 1 週間前に，プログラム内容・配布資料・提示資料について毎回 2 時間程度打合せを行った．事後打合せは WS 終了直後の会場で毎回 1 時間程度行い，感想カードの意見に基づき参加住民の気持ちを計画案策定に反映することに重点を置き実施した．

2.7 住民主体の計画案策定

このプロジェクトでは「市民参加の梯子」における 6 段と言う目標を実現するために，住民の関与度合を高く設定し，全 8 回の WS の中で 5 回目まで設計者が計画案提示を行わず，計画の主導権を住民に委ねた．

7 ヶ月のスケジュールを前提に表 2 の内容を以下の手順で実践した．

(1) 必要諸室の抽出（第 2 回）

新しい施設での行いたい活動を言葉で示し，似た活動をグルーピングし，その活動を行うために必要な部屋名をあげた．多くあがった部屋ほど要望が強いと判断した．この作業を通じて個人意見を住民共通の考えに展開することを狙った．

(2) 必要諸室のゾーニング（第 4 回）

必要諸室を機能ごとに色分けし，部屋の大きさや数を色紙に置き換え，各グループでゾーニング図を作った．出来上がった各グループのゾーニング図を見比べ住民の必要諸室（機能）を可視化した．

(3) 動線を付加したゾーニング（第 5 回）

敷地の持つ特性を設計者が説明して駐車場や入口の設定を行い，前回作成したゾーニング図に人と車の動線を加えて各グループがゾーニング図を作成し，4 案のゾーニング図を作り上げた．この回までの作業は一般的には設計者が行う作業を住民の視点で行ったと言える．

(4) 計画案の提示（第 6 回）

今までの住民主体の作業のまとめとして，全回までに作成された 4 つのゾーニング案を類似する 2 つの計画案として提示した。計画案は面積・規模を揃えた逆 T 字形中廊下案（以下中廊下案と呼ぶ）と円形中庭案（以下中庭案）の 2 案とし，今まで議論した内容がこの 2 案に集約されているかの確認を行った．

(5) 基本計画案への集約（第 7 回）

前回 WS での意見・要望を反映した 2 案を 1 案に集約する作業を行った．今回に限りグループ分けせずに全員で議論した．まず一人ずつ意見を述べ，次に全員で「2 案を折衷するか」「どちらかの案を選択するか」「選択するとしたらどちらの案か」について述べ，過半の意見を占めた中庭案を選択した．なお，中庭案に決定するにあたっての改善要望を次の基本設計段階に反映することも決められた．

3. WS 意見の分類・分析

3.1 意見の分類

各 WS では毎回 39 ～ 68 の意見，WS 後の感想カードでは毎回 23 ～ 30 の意見があり，その総数は 436 である．各 WS の平均出席者は 20 人程度であり一人当たり 2 ～ 3 件の意見，1 ～ 1.5 件の感想カード意見が出たことになる．意見類型（表 3）及び意見対象室（表 4）での意見数が WS の経過とともにどのように変化したかを調べた．

(1) 意見類型

意見の種類は表 3 に示すように，①コンセプト，②建物機能・デザイン，③部屋，④外部空間，⑤管理運営，⑥ WS の進め方，⑦単なる意見の 7 区分とした．

さらに，③部屋については「必要な部屋，設けたい部

表 3 WS 意見の種類

WS回数	コンセプト	建物機能・デザイン	部屋				外部空間			管理運営	小計	WSの進め方			単なる感想	計
			必要な部屋	部屋のつながり	部屋の広さ・数	部屋の機能	必要外部空間	外部空間の広さ・数	外部空間の機能			賛同	修正要望	提案		
2	5 (4/1/0)	12 (10/1/0)	35 (34/0/1)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	6 (3/0/3)	2 (1/1/0)	0 (0/0/0)	8 (3/0/5)	68 (55/3/9) 87%	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	68
感想カード	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0) 100%	8 (0/0/0)	3 (0/0/0)	8 (0/0/0)	5 (0/0/0)	25
4	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	5 (3/0/2)	25 (19/4/2)	4 (3/1/0)	6 (6/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/1/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	42 (31/6/5) 88%	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	42
感想カード	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	5 (5/0/0)	1 (1/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	10 (10/0/0) 100%	11 (0/0/0)	0 (0/0/0)	4 (1/0/0)	2 (0/0/0)	27
5	1 (1/0/0)	1 (1/0/0)	3 (3/0/0)	14 (12/0/2)	7 (6/1/0)	11 (9/0/2)	1 (0/0/1)	6 (5/0/1)	5 (3/0/1)	6 (1/0/1)	55 (41/1/8) 84%	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/0/0)	56
感想カード	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	3 (1/1/1)	1 (1/0/0)	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/1/0)	11 (8/2/1) 91%	11 (0/0/0)	0 (0/0/0)	4 (1/0/1)	4 (0/0/0)	30
6	0 (0/0/0)	2 (1/0/1)	6 (2/1/3)	15 (11/1/3)	10 (10/0/0)	13 (12/0/1)	4 (1/0/3)	2 (0/0/2)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	52 (37/2/13) 75%	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	52
感想カード	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	2 (2/0/0)	1 (0/0/1)	0 (0/0/0)	1 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	5 (2/0/2) 50%	5 (0/0/0)	3 (0/0/0)	8 (0/0/0)	9 (0/0/0)	30
7	0 (0/0/0)	2 (2/0/0)	9 (6/0/3)	10 (6/1/3)	4 (4/0/0)	5 (3/1/1)	1 (0/1/0)	1 (0/0/1)	1 (1/0/0)	3 (3/0/0)	36 (25/3/8) 78%	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	2 (2/0/0)	1 (0/0/0)	39
8	2 (2/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	2 (0/1/1)	7 (3/2/2)	17 (14/0/3)	2 (1/0/1)	0 (0/0/0)	5 (3/0/2)	3 (1/1/1)	39 (25/4/10) 74%	4 (4/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	44
感想カード	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	4 (1/0/3)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	3 (0/0/0)	8 (2/0/3) 40%	10 (1/0/0)	0 (0/0/0)	2 (0/0/0)	3 (0/0/0)	23
計	11 (10/1/0)	20 (15/1/3)	64 (52/2/10)	74 (52/7/15)	36 (30/4/2)	59 (50/1/7)	15 (6/1/8)	13 (7/2/4)	11 (7/0/3)	24 (8/2/7)	327 (237/21/60) 81%	49 (5/0/0)	6 (0/0/0)	29 (5/0/1)	25 (0/0/0)	436
採用率	91%	79%	81%	70%	83%	86%	40%	54%	70%	47%	75%	—	—	—	—	
	100%	84%	84%	80%	94%	88%	47%	69%	70%	59%	81%	—	—	—	—	

5 (4/1/0) 意見総数
←意見総数のうち ◎（完全採用）○（ほぼ採用）の数
←意見総数のうち △（一部採用）の数
←意見総数のうち ×（不採用）の数

採用 91% ←意見総数に対して◎ ○が占める割合
100% ←意見総数に対して◎ ○ △が占める割合

表 4 WS 意見の対象室

	多目的ホール	ｽﾀｼﾞｵ	軽運動室	乳幼児室	集会室	学習ｺｰﾅｰ	和室	調理室	食事室	工房	ラウンジ	廊下	ﾄｲﾚ	事務室	ﾃﾗｽ	駐車場	緑地	計
2	9 (9/0/0)	4 (4/0/0)	3 (3/0/0)	2 (2/0/0)	7 (7/0/0)	1 (1/0/0)	1 (1/0/0)	1 (1/0/0)	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	4 (4/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	2 (1/0/1)	2 (2/0/0)	1 (0/1/0)	4 (0/0/2)	45 (40/1/4) 91%
感想カード	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0) 0%
4	7 (6/1/0)	2 (2/0/0)	4 (2/1/1)	4 (4/0/0)	4 (4/0/0)	6 (5/1/0)	1 (1/0/0)	3 (3/0/0)	3 (3/0/0)	0 (0/0/0)	5 (4/1/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	1 (0/1/0)	1 (0/0/1)	42 (35/4/3) 93%
感想カード	2 (2/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	1 (1/0/0)	6 (6/0/0) 100%
5	4 (3/0/1)	5 (5/0/0)	1 (1/0/0)	3 (3/0/0)	5 (4/0/1)	3 (2/1/1)	1 (1/0/0)	2 (2/0/0)	4 (2/0/2)	0 (0/0/0)	7 (6/0/1)	0 (0/0/0)	2 (2/0/0)	0 (0/0/0)	3 (3/0/0)	1 (0/0/1)	7 (6/0/1)	48 (40/0/8) 83%
感想カード	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	6 (6/0/0) 100%
6	4 (3/0/1)	2 (1/0/1)	2 (2/0/0)	4 (4/0/0)	3 (3/0/0)	1 (0/1/0)	7 (4/1/2)	3 (3/0/0)	3 (2/1/0)	1 (1/0/0)	4 (4/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	5 (4/0/1)	5 (1/0/4)	1 (0/0/1)	46 (33/2/11) 76%
感想カード	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/0/1) 0%
7	0 (0/0/0)	5 (4/1/0)	0 (0/0/0)	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	3 (2/1/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	4 (1/0/3)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	2 (2/0/0)	1 (1/0/0)	1 (0/0/1)	3 (2/1/0)	23 (16/2/5) 78%
8	3 (2/1/0)	1 (0/0/1)	1 (0/1/0)	2 (0/1/1)	4 (3/0/1)	3 (2/0/1)	4 (3/0/1)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	3 (3/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	3 (3/0/0)	0 (0/0/0)	2 (1/0/1)	27 (18/3/6) 78%
感想カード	1 (1/0/0)	0 (0/0/0)	1 (1/0/0)	2 (1/0/1)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	0 (0/0/0)	1 (0/0/1)	0 (0/0/0)	6 (3/0/3) 50%
計	32 (28/2/2)	21 (17/1/3)	12 (9/2/1)	19 (16/1/2)	24 (22/0/2)	17 (12/0/5)	14 (10/1/3)	10 (10/0/0)	13 (10/1/2)	4 (3/0/1)	28 (23/1/4)	0 (0/0/0)	7 (6/0/1)	4 (3/0/1)	15 (14/0/1)	11 (2/2/7)	19 (12/1/6)	250 (197/12/41)
採用率	88%	81%	75%	84%	92%	71%	71%	100%	77%	75%	82%	0%	86%	75%	93%	18%	63%	79%
	94%	86%	92%	89%	92%	71%	79%	100%	85%	75%	86%	0%	86%	75%	93%	36%	68%	84%

5 (4/1/0) 意見総数
←意見総数のうち ◎（完全採用）○（ほぼ採用）の数
←意見総数のうち △（一部採用）の数
←意見意見のうち ×（不採用）の数

採用 91% ←意見総数に対して◎ ○が占める割合
100% ←意見総数に対して◎ ○ △が占める割合

屋」，「部屋と部屋のつながり」，「部屋の広さ・数」，「部屋の機能」の4種類，④外部空間については，「必要な外部空間」，「外部空間の広さ・数」，「外部空間の機能」の3種類，⑥WSの進め方については，「WSの進め方賛同」，「WSの進め方修正要望」，「WSの進め方提案」の3種類にそれぞれ分類した．各種意見数の詳細は表3に示す．

(2) 意見の対象となる部屋

意見の対象となる部屋は図2に示す17の部屋及びゾーンで分類した．多目的ホール32件，ラウンジ28件，集会室24件，音楽練習室21件，乳幼児室19件，緑地19件などとなっている．

3.2 意見の分析

(1) 意見類型の推移

意見類型の推移は，初期段階は「コンセプト・建物機

能・必要な部屋」に関する意見，その後部屋と部屋の「つながり」，中間段階で部屋の「広さ・数」，そして最終段階は部屋の「機能」に集中して意見が出た．

(2) 感想カード意見とその推移

WS後の感想カードの内容からWSの進め方についての住民の反応が読み取れる．

49件の「賛同」は各WSで概ね10件前後が平均的に出ている．6件の「修正要望」は第2回WS及び第6回WSで3件ずつあるが，それ以降は出ていない．29件の「提案」のうち，第2回WS及び第6回WSで8件ずつ集中して出ている．

(3) 部屋に対しての意見とその推移

部屋に対する意見は各室に偏りなく出ている．強いて言えば「多目的ホール」や「ラウンジ」などの比較的面積が大きい部屋の意見が多い．

意見が多い部屋も，意見が少ない部屋も各WSにおいて偏りなく意見が出ている．ただし，「和室」，「テラス」，「駐車場」については設計者が計画案を提示した第6回WSにやや偏りがある出方をしている．

(4) 意見類型の採用率

表3の意見類型における基本計画への採用された割合（採用率）について調べた．採用率は81%（一部採用含む），75%（完全採用）である．「コンセプト」「建物機能・デザイン」「必要な部屋」「部屋の広さ・数」などのマクロ的な項目は概ね80%以上（一部採用含む）と高い数値である．一方，「外部空間」や「管理運営」は比較的低い数値（47～70%程度）である．

進捗と採用率の関係は，第5回WSまでの採用率は84～100%と高いが，第6回以降は40%～78%程度に下がっている．

(5) 部屋ごとの採用率

部屋ごとの採用率は一部の部屋を除き概ね80%以上の高い値である．「学習コーナー」「工房」「事務室」「緑地」が68～75%程度でやや低く，「駐車場」が36%で極端に低い．

以上のように，WSで出た意見では，全般的に多岐にわたっているが，部屋に関する意見が最も多く，次いでWSの進め方に対する意見が多くなっている．意見の推移をみると，最初は「コンセプト」，「建物機能」，「必要な部屋」が多く，後になると具体的な諸室機能が多くなる．具体的な部屋については「多目的ホール」，「ラウンジ」などの誰もが利用する，意見が出しやすい部屋について全般的に多い．採用率については全体として81%と高いが，外部空間及び管理運営に関する採用率が低い．

4. 利用者満足度調査とWSの関係性

WSで出た意見の検証及びその効果を検証するために，まず，対象とする西部福祉会館を含む日進市内の4つの福祉会館について利用者満足度調査を行った．4館の施設概要を表5に示す．

4.1 調査概要

調査は西部福祉会館の竣工4年後の2012年9月3日～9月14日に行った。調査対象の属性は年齢・性別・利用頻度及び市民WSに参加した否かをたずねた．また，参考に管理運営の方々も少数であるが調査対象とした．

設問は主要17室（多目的室，軽運動室，集会室，和室，乳幼児室，図書室，調理室など）について4項目①部屋の広さ・高さ，②部屋の明るさ，③部屋の温熱環境，④部屋に付随する設備・家具什器を5～3段階でたずねた．調査方法は各館とも館の職員が任意の来館者に調査票を渡しその場で記入・回収する方法を採用した．各館60部，全体で240部配布し，230部（回収率96%）のサンプルが入手できた．

4.2 調査対象の属性

年齢は全体で60歳以上の利用が多い．特に岩崎台・

表5 各会館の概要

概要＼館名		相野山	岩崎台 香久山	北部	西部
竣工		1999年	2003年	2007年	2008年
階数・構造		RC造一部S造 2階	RC造 2階	S造2 階	RC造一部S造 平屋
敷地面積		5,537㎡	2,309㎡	2,309㎡	4,506㎡
延べ床面積		1,435㎡	1,635㎡	1,622㎡	1,809㎡
WS開催の有無		なし	あり	あり	あり
内部	多目的ホール	163㎡	209㎡	140㎡	172㎡
	音楽練習室・ｽﾀｼﾞｵ	24㎡	66㎡	30㎡	46㎡
	軽運動室	132㎡	142㎡	108㎡	129㎡
	乳幼児室	55㎡	53㎡	83㎡	60㎡
	集会室	128㎡ 2室	152㎡ 3室に分割可	90㎡ 2室に分割可	115㎡ 3室に分割可
	学習ｺｰﾅｰ・学習室	39㎡	68㎡	73㎡	57㎡
	和室	69㎡	68㎡	85㎡	133㎡
	調理室	58㎡	69㎡	77㎡	78㎡
	食事室	41㎡	45㎡	86㎡	78㎡
	工房	なし	75㎡	50㎡	40㎡
	ラウンジ・ロビー	121㎡	146㎡	110㎡	198㎡
	廊下	-	-	-	-
	トイレ	1階のみに設置 多目的WC1か所	各階に設置 多目的WC3か所	各階に設置 多目的WC2か所	2か所設置 多目的WC2か所
	事務室	121㎡	50㎡	47㎡	51㎡
外部	テラス	あり	あり	あり	あり
	駐車場	46台 別敷地含む	39台	52台 別敷地含む	40台 別敷地含む
	緑地	あり	あり	あり	あり

香久山が66%と高く，新興住宅地を対象地域に含む西部（41%），北部（38%）の比率が低い．性別は各館とも女性の比率が高い．利用頻度は各館とも「月に2～3回」が多いが「毎日」と「週に3～4回」の合計が相野山は38%と高く西部（18%）岩崎台・香久山（15%）は低い．

4.3 WSの影響分析

ここで，数量化Ⅱ類分析を用いて，WSと満足度調査結果の関係を明らかにする．具体的にWSを行った3館と行わなかった1館を外的基準として，満足度調査の項目を説明変数とした．なお，サンプル数との関係で，表6に示す調査項目に絞った．

まず，数量化Ⅱ類分析結果の判別的中率は90.04%と高く，WSを行ったか否かは，満足度調査と強い関係があることを示している．その中で，影響の大きい要因として，つまり寄与率の項目として，学習室の広さ，多目的室の広さ，調理室の広さ，トイレの広さ，多目的室の附属設備があげられる．一方，調査対象の属性及びWS参加非参加の寄与率順位が較的低く，判別結果に対する影響が少ないことがわかる．

次いで，カテゴリースコアについてみると，WSを行わなかったサンプル（会館）スコアの平均値はプラスになっていることから，多目的室の広さ，学習室の広さ，トイレの広さの評価「不適」は，判別結果に対する影響が大きいことがわかる．一方，多目的室の附属設備の評価「とても良い」は，マイナスの値になっており，利用者に重視されていると考えられる．

5. WS手法上での諸課題

5.1 プロジェクトの評価

このプロジェクトはシェリー・アーンスタインによる「市民参加の梯子」の「6段以上」を目標として進められ，以下の視点から目標は概ね達成されたと考える．

(1) 住民の評価

住民意見の建物への反映は3章で述べたように平均80%程度の数値であり駐車場・一部の外部空間（菜園の設置）及び管理運営を除いて住民意見が概ね実現された．また満足度は4章で述べたようにWSの実践は満足度の向上やプロジェクトの特色付けに有効である．

(2) 外部評価

第3者による建築的な評価として2011年に第16回愛知県人にやさしい街づくり賞を住民・行政・設計者による施設づくりの好例として受賞[注2)]した．

5.2 WS手法への教訓

住民評価，外部評価とも一定の成功を収めた背景には，WSの事務局体制，WSの進行のしかたなど以下のような工夫が貢献したと考えている．

WSを効果的に実践する手法について既往の研究[2)～9)]で言及されている要素と今回のWSの実践の比較を表7

表6 数量化Ⅱ類の分析結果

アイテム名	カテゴリー	度数 230	スコア	レンジ 寄与率	寄与率 順位
職員	○	9	0.946	1.01	14位
	×	214	−0.061	3.93%	
	不明	7	0.663		
年齢	～20歳	18	−0.677	1.12	12位
	20歳～39歳	41	−0.235	4.37%	
	40歳～49歳	60	−0.066		
	50歳～69歳	48	0.443		
	70歳～	63	0.071		
性別	男	56	0.351	0.60	8位
	女	159	−0.094	2.36%	
	不明	15	−0.254		
利用頻度	月に一回	27	−0.433	0.78	19位
	月に2～3回	116	−0.065	3.05%	
	週に3～4回	51	0.348		
	毎日	13	−0.375		
	年に数回	23	0.273		
WS参加	参加	21	0.120	0.42	21位
	不参加	188	−0.055	1.66%	
	不明	21	0.370		
多目的の広さ	やや不適	9	1.373	2.09	2位
	ふつう	26	−0.119	8.15%	
	良い	77	0.323		
	とても良い	50	0.288		
	不明	68	−0.713		
多目的の附属設備	不便	3	0.109	1.56	5位
	やや不便	13	−1.124	6.09%	
	ふつう	58	−0.081		
	良い	57	−0.184		
	とても良い	20	−0.245		
	不明	79	0.435		
音楽練習室の広さ	不適	2	−1.061	1.48	6位
	やや不適	20	−0.106	5.80%	
	ふつう	30	−0.287		
	良い	32	0.424		
	とても良い	17	−0.170		
	不明	129	0.017		
音楽練習室の附属設備	不便	2	−0.522	0.97	15位
	やや不便	8	−0.449	3.79%	
	ふつう	41	0.001		
	良い	31	0.301		
	とても良い	12	0.449		
	不明	136	−0.074		
軽運動室の広さ	不適	2	−0.429	0.84	17位
	やや不適	6	−0.353	3.28%	
	ふつう	18	−0.605		
	良い	47	−0.412		
	とても良い	34	0.129		
	不明	123	0.234		
乳幼児室の広さ	不適	5	0.964	1.19	11位
	やや不適	18	−0.221	4.65%	
	ふつう	26	−0.228		
	良い	32	0.043		
	とても良い	14	0.903		
	不明	135	−0.066		
集会室の広さ	やや不適	4	0.700	0.89	16位
	ふつう	40	0.629	3.48%	
	良い	44	−0.074		
	とても良い	30	−0.192		
	不明	112	−0.169		
学習室の広さ	不適	5	1.873	2.29	1位
	やや不適	12	−0.418	8.95%	
	ふつう	35	0.227		
	良い	34	−0.173		
	とても良い	13	−0.052		
	不明	131	−0.044		
和室の広さ	やや不適	6	0.597	0.84	18位
	ふつう	29	0.044	3.26%	
	良い	46	0.036		
	とても良い	26	−0.239		
	不明	123	−0.003		
調理室の広さ	やや不適	1	−1.257	1.82	3位
	ふつう	23	−1.019	7.12%	
	良い	41	−0.735		
	とても良い	27	−0.866		
	不明	138	0.567		
調理室の附属設備	やや不便	6	0.017	0.66	20位
	ふつう	33	0.479	2.56%	
	良い	31	0.205		
	とても良い	17	0.171		
	不明	143	−0.176		
ラウンジの広さ	やや不適	5	−0.686	1.29	10位
	ふつう	29	−0.696	5.05%	
	良い	65	0.107		
	とても良い	66	0.597		
	不明	65	−0.349		
トイレの広さ	やや不適	9	1.481	1.80	4位
	ふつう	52	0.402	7.03%	
	良い	101	−0.190		
	とても良い	49	−0.320		
	不明	19	0.034		
トイレの附属設備	やや不便	5	−1.176	1.47	7位
	ふつう	83	0.135	5.73%	
	良い	66	−0.169		
	とても良い	38	−0.139		
	不明	38	0.293		
駐車場の広さ	不適	19	−0.729	1.07	13位
	やや不適	68	−0.140	4.16%	
	ふつう	48	0.329		
	良い	49	0.336		
	とても良い	14	−0.089		
	不明	32	−0.238		
緑地の広さ	不適	3	−1.056	1.42	9位
	やや不適	15	−0.041	5.54%	
	ふつう	65	0.076		
	良い	71	−0.044		
	とても良い	30	−0.493		
	不明	46	0.364		

判別的中率:90.04%, サンプルスコア平均値:WSなし(1.297), WSあり(0.437)

表 7 WS 手法で配慮すべき事項

既往の研究		世古一穂ほか	中野民夫ほか	原科幸彦ほか	西部福祉会館WS
WSの要件・要素	WSの要件			双方向性と連続性ある対話	既往の研究を考慮して実施
				五感を通じて会得する体験	既往の研究を考慮して実施
	WSの要素	対等性の確保	参加	参加者の「対等性」	
		合意形成の実現	体験	情報の「共有性」	既往の研究を考慮して実施
		楽しさの創造	相互作用	プログラムの「柔軟性」	
WSの企画・事前準備	プログラム・デザイン		つかみ→本体→まとめ	テーマ、地域特性、参加者の成熟度に応じてプログラムを作る	WSの進捗を考慮して実施
	議論する場のデザイン		目的に応じた机イスの配置		畳敷きの部屋で車座になって議論
	事前打合せ		役割の再確認		WSの1週間前に2時間実施
	WSの体制・役割	進行役(ファシリテーター)	全体の進行役、グループの進行役	事務局(行政、コンサルタント)	全体ファシリテーターは設計者、グループファシリテーターは設計スタッフ、各グループに行政担当者及び大学研究室の学生
		スタッフ		策定委員会(学識経験者、推薦された市民)	
		専門家			
	実例の概要	丸山公園づくりWS(長野県高森町)		武蔵野市都市マスタープランづくり	コミュニティ施設の建築基本計画
	参加人員			延べ428人	延べ261名
	参加者の固定			固定メンバーが基本、一部の会合(街歩き、中間報告)は自由参加	公募された36名の固定メンバー
	WSの回数	6回　1996年3月～1996年6月		9回　1998年12月～2000年3月	8回　2004年9月～2005年3月
	WS開催頻度	4ヵ月に6回		1～1.5カ月に1回	1か月に1回
WS当日のアクティビティ	与条件の整理・提示		最初の回、WSで話し合う前提条件の理解		第2回WSで実施
	前回の振り返り		複数回行う場合、前回のWS概要を報告		各WSで実施
	オリエンテーション		肩書きを超えた対等な関係を作る	緊張を解くためのゲームの実施	自己紹介を一人一言実施
	適正なグループ人数		5～6人	5～10人程度	原則10人を超えない
	グループの分けかた		「機械的に分ける」「関心あるテーマで分ける」		地域性を配慮して凝視がグループ分け、案の決定の回は1グループ
	時間の管理		進行役(ファシリテーター)の才覚		集中力が途切れない3時間で設定
	意見を記録する		模造紙に書きとめ発言を可視化	ポストイットに書きとめる	各WSで実施
	対話のルール			「批判厳禁」「意見をたくさん出す」「他人の発言を発展させる」「自由奔放」	実施　「全員が発言し終えるまで質問しない」「意見は一人1分」
	作業の振り返り		グループ意見のまとめ	グループごとの成果を全体で発表	各WSで実施
	まとめ		グループ意見の発表、他グループとの協議		各WSで実施
WSの事後フォロー	感想カード		評価・フィードバック		WSの終了時に毎回実施
	事後打合せ		各役割での気づいた点、良かった点、悪かった点の報告		WSの1週間前に2時間実施終了後にその会場で1時間実施
	WSの報告		WS開催概要をホームページ等で報告		WSかわら版を行政がHPで報告
WS意見の分析	意見が出やすい領域			地域の問題点や身近な問題	使った経験がある部屋の問題点
	意見が出にくい領域			問題解決の方法や広域的な問題	外部空間や管理運営に関する意見
	意見の範囲			マスタープラン全般について多岐にわたる意見が出る、一部で範囲を超える意見あり	対象室全般にわたって偏りなく意見が出る、一部で与条件を超える意見あり
	意見の採用率			吉祥寺地域の697意見のうち採用(20.8%)一部採用(34.6%)保留(0.3%)不採用(39.8%)判定不能(4.7%)	採用が判別できる318意見のうち採用(75%)一部採用(6%)不採用(19%)

に示す.

(1) WS の運営・進行の周到性

WS の運営・進行については，例えば進行役の役割の重要性，グループ分け，会場設定，発言ルール，前回の振り返りなどの必要性が既往の研究・事例などに提示されている．それらを参考にして周到に実践したことがこのプロジェクトの成功の第 1 の鍵であった．

特に，公募選定された参加者が全 8 回にわたり固定された点は，情報の共有化を高め，WS の成功に貢献したと考えている．固定メンバーを選択した行政の意図がうまく機能したことである．

(2) 各 WS の課題設定と WS 間の連続性

公共施設の基本計画にとって各回 WS の課題設定が重要である．これが第 2 の鍵である．

住民の関心に従い，まずは必要諸室（機能）の議論，ついで機能＋ボリュームの議論，そして諸室ゾーニングの議論，最後にまとめとしての計画案の議論と言う手順である．このスムーズな流れは，参加者を固定した事で可能となった．また，「前回の振り返り」により，前回 WS の成果が途切れることなく次の WS に活かされていく，今回の議論が次回の WS に繋がっていく，と言う流れとしての WS が進行していったと言える．これは参加住民の学習にもなっていく．

一方，設計者が住民と同じプロセスを素直に受け入れ，

基本計画策定をWSの成果に任せたことも成功の理由であった．これが第3の鍵である．

以上の2点を達成するためには，事務局（行政・設計者）内での事前・事後の周到な打合せが重要であった．これが第4の鍵である．

WSの運営そのものは，既往の研究・事例を参照して求められている要素を実践すること，その際に最も重要視すべき要素はWS間のスムーズな連続性であり，それは，固定メンバーとしたこと，「前回の振り返り」の励行，WS課題設定などが重要であることを指摘した．

6. おわりに

公共施設の基本計画におけるWSの役割と教訓について検討してきた．以下に各章のまとめを述べて結論とする．

1）WSで出た意見では，全般的に多岐にわたっているが，部屋に関する意見が最も多く，次いでWSの進め方に対する意見が多くなっている．意見の推移を見ると，最初は「コンセプト」，「建物機能」，「必要な部屋」が多く，後になると具体的な諸室機能が多くなる傾向があった．

基本計画への意見の採用率は，全体として81％と高いが，外部空間及び管理運営に関する採用率が低くなった．

2）数量化Ⅱ類の分析結果から，WSを行ったか否は利用者の満足度と強い関係があることを示した．その中で，だれでも利用する多目的室，学習室，調理室，トイレなどの評価は比較的大きな要因なっている．

3）住民評価，外部評価とも一定の評価を得ている理由としては，WSの運営が既往の研究・事例の蓄積を十分に参照して実践したことである．その際に最も重要視すべきはWS間のスムーズな連続性であり，それは，固定メンバーとしたことによって可能になったこと，「前回の振り返り」の励行，WS課題設定などが教訓としてあげられることを指摘した．

参考文献

1)Arnstein, Sherry R. "A Ladder of Citizen Participation," Journal of the American Planning Association, Vol. 35, No. 4, July 1969, pp. 216-224.

2) 世古一穂：市民参加のデザイン，ぎょうせい，1998

3) 世古一穂：協働のデザイン，学芸出版社，2001

4) 世古一穂：参加と協働のデザイン，学芸出版社，2009

5) 中野民夫：ワークショップ―新しい学びと創造の場，岩波新書，1999

6) 中野民夫：ファシリテーション革命―参加の場づくりの技法，岩波書店，2003

7) 中野民夫：ファシリテーション―実践から学ぶスキルとこころ，岩波書店，2009

8) ロバート・チェンバース：参加型ワークショップ入門，明石書店，2004

9) 原科幸彦：市民参加と合意形成，学芸出版社，2005

10) 倉原宗孝：市民的まちづくり学習としての住民参加のﾜｰｸｼｮｯﾌﾟに関する考察，日本建築学会計画系論文集520号 1999年6月

11) 日高圭一郎ら：「情報共有」の観点からのまちづくりワークショップに関する一考察－宗像市吉武・赤間西地区を事例として－，日本都市学会年報40，pp. 96-105, 2006

12) 清水裕之ら：公共文化施設建設における参加型設計ﾌﾟﾛｾｽに関する研究，日本建築学会計画系論文集 536号 2000年10月

13) 同上：公共文化施設の設計から構想に至る過程における市民参加による意思決定の仕組みに関する研究，日本建築学会計画系論文集 552号 2002年2月

注：

注1）日進市福祉課からの事後のヒアリングによる

注2）愛知県主催：ひとにやさしい街づくり賞　2011年2月

（受理：平成25年5月23日）